

2026年6月26日

3年連続シェア No.1^{*1}の知見とフィジカル AI で効率化と最適化を実現【当社初】ソフトウェア・ハードウェア完全内製の
DX 清掃ロボット「JILBY」^{ジルビー} 発売

アイリスオーヤマ株式会社（本社：宮城県仙台市、代表取締役社長：大山 晃弘）は、当社として初めてソフトウェアとハードウェアの開発と製造を完全内製した法人向けの DX 清掃ロボット「JILBY（ジルビー）」を 2026 年 7 月 1 日より発売します。

近年、日本国内では労働力不足が深刻化しており、その有効な解決手段としてロボットの活用や AI の導入に関心が高まっています。政府は、とりわけ音声・動画・各種センサーを統合し現実世界を理解することで、物理的タスクを遂行する「フィジカル AI」と、その実装先として AI ロボットの導入を推進しています。世界の AI ロボットの市場規模は 2040 年に約 60 兆円に達すると見込まれており、日本政府は米中に並ぶ第三極として 3 割超の市場シェアを獲得する方針^{*2}です。

こうした中、当社は 2020 年にロボティクス事業に参入し、業務用清掃ロボットにおけるベンダーシェアは 2023 年から 3 年連続で 1 位^{*1}を獲得しています。現在ではサービスロボットの累計導入社数は 7,000 社^{*3}、累計出荷台数は 25,000 台を超え^{*4}、ロボット事業における主要な企業に成長しています。また、2023 年 7 月にはソフトウェアの内製化を目的に、ロボット開発を行うベンチャー企業のスマイルロボティクス株式会社（現：株式会社シンクロボ（以下、シンクロボ））の全株式を取得しグループ会社化しており、ロボットメーカーベンダーとしての自立を進めています。

今回発売する「JILBY」は、床面の集塵清掃を自動で行う法人向けの DX 清掃ロボットです。アイリスグループのシンクロボが初めてソフトウェアの開発を手掛け、ハードウェアは自社の大連工場（中華人民共和国・遼寧省）で製造しています。これにより、当社はロボットメーカーベンダーとしての自立を果たし、製品の企画・開発・製造・販売にとどまらず、アフターサービスまでの一貫体制を実現します。この一貫体制を確立することで、サービスを提供する過程でユーザーから得られる意見などを製品開発に活かし、製品品質や供給・サービス体制をさらに強化していきます。

「JILBY」は、当社がサービスロボットの導入を通じて蓄積した知見を基に、使用時の課題を洗い出すことで、清掃完了後に自動で充電ステーションに帰還する自動充電機能や、清掃中の稼働音を抑えた静音モード、操作性・メンテナンス性の高い設計など、ユーザーの声を反映した機能や特長を搭載しています。さらに、NTT 西日本グループが提供する「AI ロボティクスプラットフォーム」^{*5}と連携させることで、フィジカル AI を実現します。タブレットやスマートフォンなどの端末を通じて、ユーザーとロボット間のテキストや音声による双方向のコミュニケーションが可能になり、蓄積された清掃データなどを基に AI が学習し、最適な清掃ルートや頻度、時間帯などを「AI エージェント」が提案することで、清掃業務の効率化と最適化を実現します。

当社はロボットメーカーベンダーとして、ユーザー目線の製品開発とサービスの提供を行うことでロボットの社会実装を加速させ、労働力不足という社会課題の解決に一層貢献していきます。

※1：「富士経済「2024 年版・2025 年版 自律走行ロボットポテンシャル分析、2026 年版 国内自律走行ロボット市場分析」〈業務用清掃ロボット、2023 年・2024 年・2025 年実績、ベンダーシェア No.1〉。

※2：内閣官房「AI ロボティクス戦略」（2026 年 3 月）より参照。

※3：2020 年 1 月～2025 年 12 月までのサービスロボットの累計（アイリス電工株式会社での販売分、及びトライアルを含む）。

※4：2020 年 1 月～2026 年 4 月までのサービスロボットの累計（アイリス電工株式会社での販売分、及びトライアルを含む）。

※5：NTT 西日本グループ提供のオプション機能です。

■主な製品特長

・ソフトウェアとハードウェアの完全内製による機能の拡張性

ユーザーからの要望に基づいたアップデートや、導入施設・様々な外部システムとの連携、個別ニーズに応じたカスタマイズなどに柔軟かつ迅速に対応し、機能を拡張できます。

・ユーザー目線の製品仕様

<自動充電機能と着脱式のバッテリーを両立>

清掃完了後は充電ステーションに帰還し、バッテリーを自動で充電できます。また、着脱式のバッテリーを採用しているため、別のバッテリーを入れ替えるだけで連続稼働^{※6}ができます。



<静音モードでTPOに合わせた清掃が可能に>

ノーマルモードや集塵力が強いパワーモードに加え、清掃中の稼働音を抑えられる静音モードを搭載しており、店舗や商業施設が稼働している日中の時間帯や、医療・福祉施設などにおいても柔軟な清掃計画を立てられます。

<操作性・メンテナンス性の高い設計>

操作性の高い10インチの大型モニターを搭載したほか、当社のクリーナー事業の知見を活かして集塵したゴミを溜める紙パックを着脱しやすい仕様をしています。また、機体を傾けやすくするために足をかけるフットステップを大きくしたことで、ロボットの底部にあるブラシなどのメンテナンス性が向上しました。



<高い安全性>

周囲の物体までの距離や形状を測定するLiDARセンサーや、3Dカメラ、超音波センサー、段差センサー、センサー搭載バンパーなどにより、周囲の状況をリアルタイムで把握し、人や障害物、段差を検知します。清掃中の接触や転倒などのリスクを抑え、安全かつ安定した運用を実現します。



・「AIロボティクスプラットフォーム」^{※5}で清掃業務を最適化

NTT西日本グループが提供する「AIロボティクスプラットフォーム」^{※5}を連携させることで、フィジカルAIを実現します。「AIエージェント」により、タブレットやスマートフォンなどの端末を通じて、ユーザーとロボット間のテキストや音声による双方向のコミュニケーションが可能です。さらに、蓄積された清掃データなどを基にAIが学習し、最適な清掃ルートや頻度、時間帯などを「AIエージェント」が提案することで、清掃業務の効率化と最適化を実現します。今後は、エレベーターやフラッパーゲート、自動ドアなどの様々な外部システムと連携できる機能を順次追加する予定です。



※5：NTT西日本グループ提供のオプション機能です。

※6：バッテリーは1本が標準装備されています。2本目以降はオプションです。

■製品仕様※7

製品名	JILBY
画像	
本体サイズ	約 470mm×534mm×722mm (全幅×全長×全高)
本体質量	約 43kg (バッテリー内蔵)
清掃能力	約 500 m ² /時間
連続稼働時間	ノーマルモード：約 3.6 時間
	パワーモード：約 2.5 時間
	静音モード：約 11.5 時間
集塵容量	約 6.3L (紙パック)
バッテリー	リチウムイオンバッテリー
充電時間	自動充電機能による充電時間：約 4.5 時間
	プラグイン充電による充電時間 (本体電源 OFF)：約 3.5 時間
	交換バッテリーの充電時間：約 3.5 時間
充電器電源	100-240V AC
安全機能	障害物検知 (LiDAR センサー、3D カメラ、超音波センサー)、衝撃検知 (センサー搭載バンパー)、異常検知・落下防止 (段差センサー、車輪浮き検知センサー、IMU 等)、仮想障壁 (RFID)
付属品	ブラシ、紙パック×10、電源ケーブル、充電ステーション、マイクロファイバークロス、ロケーションコード×10、ブレード、HEPA フィルター×2、バキュームモーターフィルター、バッテリー、簡単ガイド
発売日	2026 年 7 月 1 日

■ブランドサイト

- ・DX 清掃ロボット「JILBY」：<https://www.irisohyama.co.jp/b2b/robotics/products/jilby/>
- ・「AI エージェント」：<https://www.irisohyama.co.jp/b2b/robotics/products/ai-cleaning-agent/>

■株式会社シンクロボ

- ・事業内容：ロボットの開発
- ・本社所在地：東京都文京区湯島一丁目 2-4 BIZCORE 御茶ノ水 7 階
- ・グループ化：2023 年 7 月 31 日

※7：ロボットの清掃能力・稼働時間・充電時間は、ご利用の環境により異なる場合があります。また、仕様・外観は予告なく変更することがあります。